

今日のシライ中

白井の愉快的な仲間たち

VOL.36

シクラメン

「冬の鉢花」と言ったら、「シクラメン」が定番ですね！学校でも、あちらこちらできれいに咲いています。（どこに咲いているのでしょうか？探してみてくださいね！）

さて、だいぶ昔に流行った歌に「シクラメンのかほり」というのがありますが、どうでしょう？シクラメンの香り、思い出せますか？もし身近にあったら、試してみてください。多分、少しも香りはしないと思います。

この「シクラメン」、華やかで美しい花なので、どこに不思議が？と思われるかもしれませんが、そもそも、花の形が不思議です。近寄ってよく見てください。シクラメンは、「下向きに咲き、花弁が反り返る」という不思議な形態の花です。なぜ、こんな面倒な咲き方をするのでしょうか？それは、「シクラメン」の原産地、地中海沿岸で、開花時期に雨が深いという気候条件に関係しています。もうわかりましたね！そうです、上を向いてのんきに咲いていると、雨で花粉が濡れてしまうのです。ですから、いつ雨が降っても大丈夫なように、花は下向きに咲きます。その姿が、恥ずかしがり屋さんに見えるので、花言葉は、「はにかみ・内気」などですが、どっこい、生き残り戦略をもった、しっかり者です。

さて、「シクラメン」は、もちろん、花が咲いた後、結実し、種を作ります。えっ！見たことがないけど…。私も見たことがありません。どうやら、咲き終わった茎は、くるくる巻きになり、（この茎がくるくる巻きになる姿が「シクラメン」という花の名前の由来だそうです。ギリシャ語で「円」を意味する言葉が元だそうです。）その先に結実するのだと。ただ、大きな親株の根元で芽吹くのは条件としてあまりよくないので、野生では、アリが運んで離れた場所で芽吹くといわれています。（ただ、「シクラメン」は、改良に改良を重ね、原種とはずいぶんかけ離れた性質のものも多く、茎が巻かない品種も多いとのこと。）

さて、「シクラメン」は、上手に育てれば、何年も咲かせることのできる花です。それは、「シクラメン」が「1枚の葉で、一つの花を咲かせる」システムだからです。つまり、「シクラメン」の株自体は、花を咲かせるエネルギーを提供しなくてよいのです。ですから、上手に育てれば、株はどんどん大きくなり、毎年花をつける理屈です。（私には到底無理ですが…。）原産地からずいぶん離れた日本で、毎年たくさんの「シクラメン」が咲いている、この状況、他の花と似ています。たとえば、「チューリップ」。この花は、その美しさを上手に利用し？人間を操り？したたかに繁殖地域を拡大する？作戦を成功させた花です。どうですか？「シクラメン」にも、同じ匂いがしませんか？あの一見可憐にうつむく姿からは想像できないような、人間を利用した生き残り戦略があるのかもしれませんが！「シクラメン」、恐るべし、です。さて、おまけ。「シクラメン」の和名・別名は何でしょう？（答えは、「かがり火花」「ブタノマンジュウ」です。「かがり火花」は、姿形から想像できますね。では、「ブタノマンジュウ」は？調べてみてね！）

